「市民力」を活かし、共につくり、永く市民に親しまれる庁舎

【設計のチーム体制、技術者の配置、組織のバックアップ体制】

1 私たちは市民と協働する庁舎づくりのパートナーです

庁舎設計には、市民・行政・議会をはじめ多くの意見を集約することが求められます。豊富な経験と知識をもち、様々な声に丁寧に耳を傾ける、総合力の高い設計チームで取り組みます。

■ 組織事務所の総合力を集結

- 庁舎建築の経験豊富な管理技術者と建築（意匠）主任とともに、チーム全体で連携し設計を行います。
- 庁舎における公共建築賞の受賞歴をもつデザイン監修者を配置し、志木市のグランドデザインから建築のデザインまで、幅広く監修します。
- 新庁舎計画や外構（人工地盤）計画、仮庁舎計画を同時並行で進めるため、各計画に主担当を配置し、相互連携を図ります。

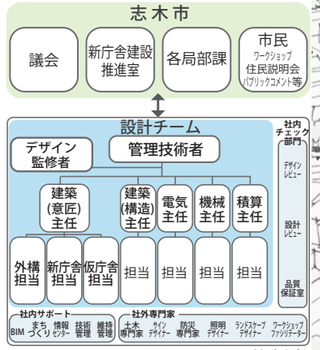

図 1- チーム体制表

管理技術者	多数の庁舎設計の実績と建築のあらゆる知識・技術を持って、円滑に工程管理とコスト管理を行います。
デザイン監修者	まちのグランドデザイン、庁舎デザイン、環境デザイン、内装デザインをまとめ、意匠・構造・環境のバランスがとれた庁舎をつくります。
建築（意匠）担当主任技術者	庁舎設計や免震、液状化対策などの経験を活かし、発注者や各関係者と丁寧に対話しながら、各担当者と連携し、全体をまとめます。
新庁舎担当	庁舎実績を持つ庁舎設計のエキスパートが、責任持って他担当と連携し、新庁舎設計を進めます。
仮庁舎担当	仮設建築物のノウハウを持つ担当が工期・工法・コスト検証を徹底して行います。
外構担当	人工地盤の設計やランドスケープデザインの経験を持つ担当が他担当と協力しながら設計を行います。
建築（構造）担当主任技術者	安全で永く利用可能な庁舎・人工地盤となるよう、構造提案、構造設計を行い、コンパクトで合理的な庁舎の設計を行います。
電気担当主任技術者	BCP 計画のエキスパートが最適な発電機計画・非常電源確保を提案し、議場システムやセキュリティシステムの比較検討を行います。
機械担当主任技術者	執務室やロビー空間の快適な空調計画、LCC に配慮した熱源計画や環境配慮項目を比較検討し提案します。
積算担当主任技術者	最新の他庁舎の入札実績の分析、物価上昇等を考慮したコスト検討を行い、設計書を作成します。

社内サポート・社内チェック
- ●BIM　：三次元設計、シミュレーションでの検証
- ●デザインレビュー：都市・建築デザインの第三者視点検証
- ●設計レビュー　：建築・構造・環境の設計審査

社外専門家
- ●土木専門家　：安全な外構土木計画の助言
- ●防災専門家　：あらゆる災害における BCP 対策の助言
- ●ワークショップファシリテーター：市民協働企画の助言・実行

図 2- 各担当の役割

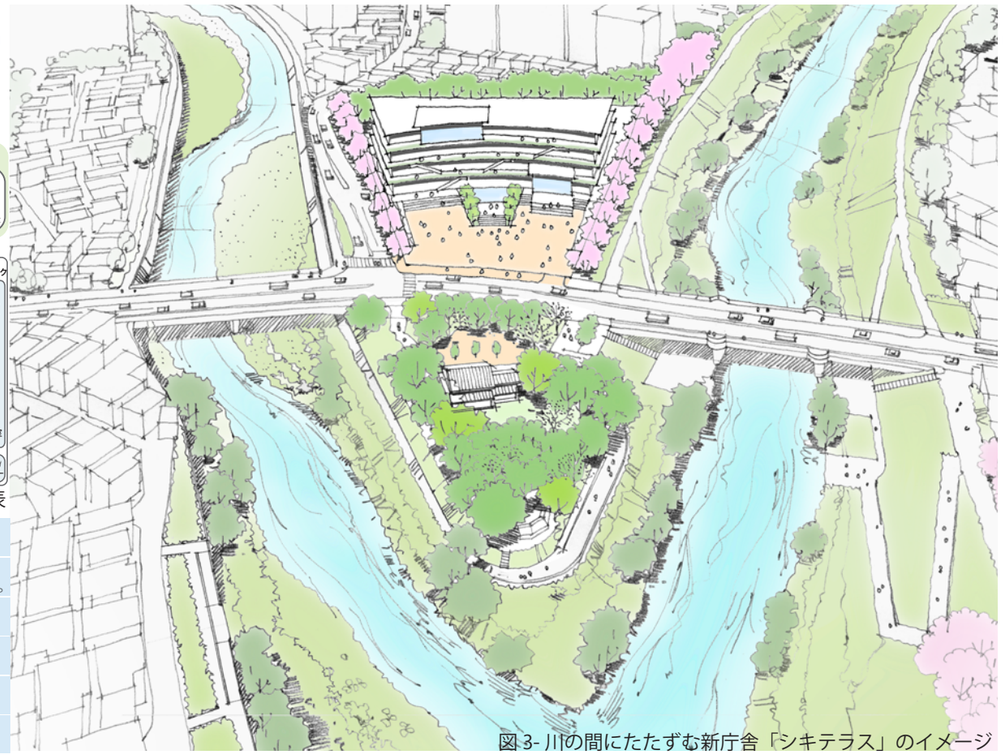
図 3- 川の間にたたずむ新庁舎「シキテラス」のイメージ

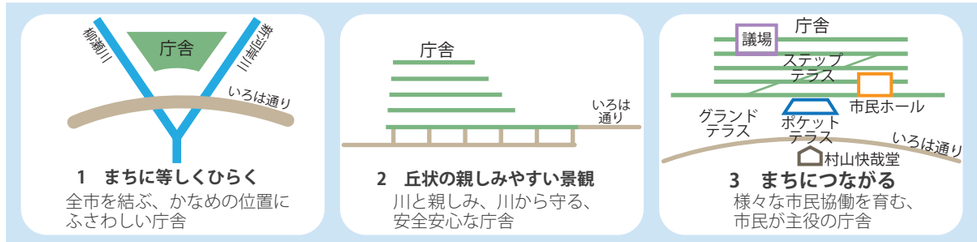

図 4- 新庁舎「シキテラス」をつくる 3 つのポイント

【設計の取り組み方針】

2 きめ細やかな対話型を大切にして設計を進めます

誰もがわかりやすい検討資料と説明方法で、みんなで考えながら設計が進むようにします。

■ 丁寧な対話と複数案の比較検討でわかりやすい説明

- 基本計画の内容をしっかりと捉え、市民、行政、議会との相互理解を深める庁舎づくりを目指します。
- プロジェクトの関係者とは対面コミュニケーションを重視し、きめ細やかな意思疎通を図り、丁寧に設計を進めます。
- ゾーニング、執務室形態、議場、更衣室など全体構成から細部に至るまで、比較検討資料を作成し、最適な計画に導きます。

■ 模型やパース、三次元モデルを活用したわかりやすい表現

- 模型やパース、三次元モデルなどビジュアルを重視し、わかりやすい説明資料を用いて合意形成を図ります。
- BIM※を利用し、基本設計段階から三次元モデルで検討を行います。BIM を用いることで、各書庫、倉庫、執務室内の文書量（ファイルメーター数）や、什器・備品等数量の管理が行え、将来的な文書量整理やレイアウト変更時において役立つバックデータとなります。

※BIM(Building Information Modeling)
コンピューター上に作成した三次元の建物モデルに、コストや仕上げ、管理情報などのデータを追加し、建築の設計から施工、維持管理までの工程で情報活用を行うことができるツール

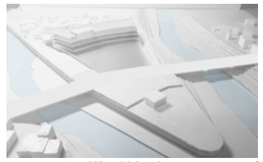
図 5- 模型検討のイメージ

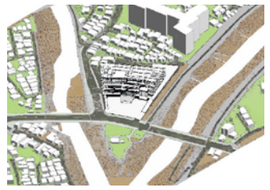
図 6- 三次元モデル検討のイメージ

■ シミュレーションや比較表による費用対効果の検証

- 建物内の自然換気の有効性を高めるため、風シミュレーションを行いながら快適な執務環境計画の検証を行います。
- 構造検討や環境提案等において、費用対効果がわかる比較表を作成し幅広い検討を行います。

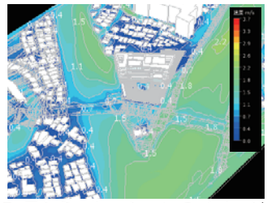
図 7- 風シミュレーションのイメージ

【重点事項、本業務で重要と認識している事項等】

3 市民と共につくり、「市民力」を高めます

新庁舎を市民と共につくることは、市民力をさらに高め、市民協働の場を広げていくことにつながります。私たちはこのプロセスを全面的にサポートします。

■「市民力」が設計内容に反映されるワークショップ

- 庁舎設計におけるワークショップ（以下、WS）の実績を活かし、市民協働スペースや広場・テラスについて、市民の意見を取り入れた庁舎づくりを提案します。

図 8- ワークショップのイメージ

■「市民との対話」を大切にする

- 市民が意見を出しやすいよう、経験豊富な WS ファシリテーターを市と相談のうえ配置し、市民との対話を丁寧に行い、設計への反映検討を行います。

図 9- 関係者によるコンセプトの共有

■「情報の見える化」

- 設計の節目に、市の広報やホームページに情報を載せたり、説明会を開催する際の資料作成や説明協力等のサポートをしっかりと行います。

図 10- 報告会のイメージ

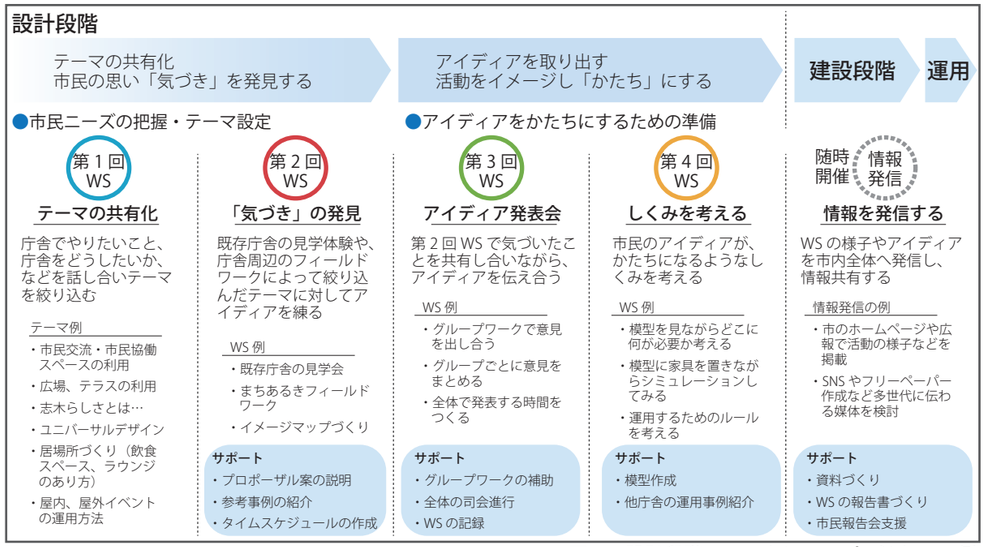

図 11- 設計段階のワークショップの流れの一例

■「地区まちづくり会議」で庁舎づくりを志木市全域にひろげる

- 市で実践している「地区まちづくり会議」の中で庁舎の協働スペースについてアイディアを募るなど積極的に関わるしくみを提案します。
- 「地区まちづくり会議」で既に企画されている各地区のイベントを庁舎の広場で同時開催するなど、地域間交流が新庁舎で行われるきっかけを提案します。

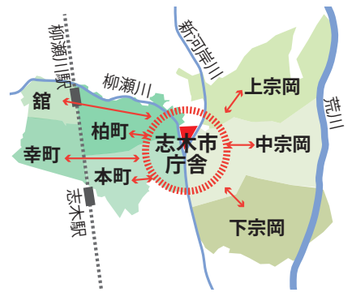

図 12- 地区まちづくり会議とつながる庁舎づくり

■ 市民力から生まれる地元の英知を集結させる

- 内装、家具、外構や植栽など志木の英知や市内企業で対応可能な設計仕様とするなど、地元経済への配慮を行います。

図 13- 市内の英知を生かしてつくる庁舎